

自作した機体を縦横に操って、 狙うドローンレースの表彰台。



I am a leader

パーツを選定し試行錯誤で作るオリジナルドローン。

私たちはレース用ドローン(競技用マルチコプター)の実機製作を行い、レースでの勝利を目指すチームです。九州の大学の中でも、ドローンに特化したプロジェクトや活動は稀だと思います。

製作する機体は、メンバー各自が部品等を購入・調達して作るオリジナルドローンです。どうすればレースで早く、そして小回りがきく動きができるのかを考えながら、「機体の部品の配置」や「フレームの長さ」「プロペラの形」などを変えたり、調節したりしながら製作に取り組んでいます。また、FPV(一人称視点)操縦によるレースのため、アマチュア無線免許の取得も目標としています。このプロジェクトの魅力はやはり、自作ドローンが実際に空を飛ぶこと。思い通りに飛翔させたときは、「やった!」という達成感を覚えますね。

過去にはメンバーが、兵庫のドローンレース大会で準優勝に輝いた実績があります。2020年は「阿蘇ドローンレース2020」に先輩2人が出場したものの、機体トラブルで残念な結果に終わりました。大会は各地で行われているので今年もどこかの大会に参加し、表彰台を狙いたいと思っています。結果を残して本学の名前を広く知ってもらおうと同時に、多くの人とコミュニケーションをとりながらドローンの魅力を伝えていきたいですね。



機械工学コース3年
池田 瞭太
長崎県立鹿町工業高等学校出身

実験等を通して技術を深く学び、将来、エンジニアとして働こうと思
い立ち入学。ドローン開発のように、今までにないモノを作るような
仕事に就きたいと話す。プロジェクトへは、先輩の活躍を新聞で知っ
たことから興味を持ち、自ら参加を申し出た。



上) ネットで探し、取り寄せたパーツを元にオリジナルのドローンを組み立てる。4枚のプロペラが付いた「クワッドコプター」が、レース用ドローンのスタンダードな形状。

下) FPVゴーグルとレース用ドローン2機。ドローンにはカメラが搭載されており、ゴーグルにはドローンからの映像が送信されるため、自身が上空にいるかのような目線で操縦することができる。